

カトリック二俣川教会
教会だより



二十六聖人

2023年 1月号

No. 354 (2022年12月25日発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

巻頭言：平和をもたらす人となれますように

明けましておめでとうございます。いよいよ、新しい年が始まりました。この新しい年を迎えて、今年も信者の皆さんの家庭に、神様の豊かな恵みと愛が注がれるよう、お祈りいたします。また、信者の皆さんの信仰と愛とを、神様が強めてくださり、至る所で、多くの愛の実を結ぶことができるよう、神様に願っております。

世の中のことについては、人類の様々な古いふるまいがはびこっていて、それについてのニュースが毎日聞こえてくる現実です。3年を超え、もう4年目に入っている新型コロナウイルス感染症の状況はまだ続いています。それと別に、戦争や紛争、それに使われる色々な武器の開発や実験が命を奪ったり、脅したりしています。また、経済的な主導権を巡る国々の争いが止まらない状況の中で、多くの人たち、特に数えきれないほどの子供たちが飢餓と病気による死にさらされています。

す。こんな状況の中で、人類の未来はどうなるのかという心配だけが深まっています。

そして、神様を信じているわたしたちに、果たしてできることがあるのかという疑いも抱かれたりしています。

でも、そうだからこそ、わたしたちは神様が遣わしてくださったイエス様の事を忘れず、もっと力強くそのイエス様の生き方に沿って歩まねばならないと思います。イエス様は神様ご自身が自らの姿を現すために遣わされた方であり、わたしたちはイエス様から神様の姿を見つけることができます。それは、言うまでもなく愛、そのものでしょう。神様はその愛をイエス様のみ言葉と御業を通して人間に示し、すべての人がそのイエス様からまことの平和の道を学ぶことを望んでおられます。そのまことの平和の道とは、自分をへりくだり、また、互いに愛し合うことなのです。イエス様は神様の独り子でありなが

らも、自らをへりくだって人間となられました。そして、み言葉と善い行い、特に最後の晩さんと十字架上の死を通して、赦しの道と励ましの道、癒しの道と平和の道に、すべての人を招いてくださいました。それこそが、神様が望んでおられる人間の真の生き方だからでしょう。

わたしたちは厳しくて冷酷な現実を過ごしながらも、そのイエス様から学んだ平和の道を、心と力を尽くして歩まなければなりません。

ん。そのためには、常に愛を語り、また、平和を築くために務めることが大事なことです。その務めを果たすことによって、わたしたちはまことの平和をもたらす人となれるでしょう。今年も、信者の皆さんの愛の働きによって、多くの人が神様の平和に導かれるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



－ 12 月教会委員報告 －

【教会委員会時の神父様のお話】

シノドスで用意された質問と、その応答を死蔵させるのではなく、小教区あるいは小教区に属している団体がシノドス的精神に沿って運営されなければなりません。シノドスの大切な要素を、委員会・団体がどのように生かしているかを顧みなければ、1 人の人によって運営される団体になってしまう可能性が高くなります。「交わりとしての教会」実現のために試行錯誤を繰り返し、共に歩む教会を育むために大切な事です。教会委員会や委員会に属する団体が、シノドス的精神に基づいて運営されるように努めていただければと思います。

1 月より、シノドスについて新しく話を始めますので、皆さんと共有して行きたいと思います。私たちは、神様に導かれ、神様に忠実に信仰の道を歩むことが出来ればと思います。

【今月の検討項目】

1. 2023 年年間行事予定表作成と信徒への

配布方法 年間行事予定表を各会にて加筆・修正したものを事務局にて取り纏める。信徒の皆さんへの配布はレターケースへ配布し、ミサに来られた方へも配布。

2. クリスマス献金について

クリスマス献金は、11 月 26 日から 2023 年 1 月 8 日までとし、福祉団体への寄付金の原資とする。

3. 信徒集会資料とスケジュールについて

信徒集会開催日は、2 月予定を 2023 年 3 月 12 日に変更し、教会基本方針に各会からの意見を反映させる。

4. ステンドグラス P J T 進捗報告

P J T の人員構成も含め、進め方、方向性を明確にする。

5. 日本二十六聖人 P J T 準備会進捗報告

・理念は、日本二十六聖人と共に歩み続ける二俣川教会を目指す。

・3 つを柱として様々な企画を行う。

① その生涯と殉教精神を知る、学ぶ

② 活かして生きる ③ 受け継ぎ、受け継ぐ

6. 各会報告

1) 典礼：

・待降節より新しいミサ式次第になりましたが、追悼や葬儀のミサも、同じく新しい式次第に変わりましたので、新しい式次第を用意しました。

・降誕祭から主日・祭日の朗読奉仕者が2名になります。

・12月26日から、週日のミサ前9：30～教会の祈りを行います。＊ミサは10：00～

・年始の週日のミサは1月6日（金）から

2) 教会学校：

・七五三お祝いを11月20日（日）の11時ミサにて行いました。

7歳：2名 5歳：1名 4歳：1名 3歳：4名の計8名でした。

・教会学校のクリスマス会を12月18日（日）10：00から行います。

・初聖体申込を2023年1月より開始予定。

3) キリスト教講座：

・入門式参加者 11月26日（土）2名
11月27日（日）2名 予定：12月7日（水）1名

・黙想会：12月10日（土）13：00より、講話—ゆるしの秘跡—ミサ
（指導司祭は牧山善彦師）

4) 広報：

・HP運営を外部委託できたことで、セキュリティの懸念は解消され、閲覧時の操作性が向上した。2023年はホームページ内部の整理を少しずつ始めていきたい。

5) 福祉：

・年末福祉献金に関して、献金先各団体から活動報告が届きました。今後は、「二十六聖人」等への掲載を通して周知して行きます。

6) 共同墓地：

・生前予約者受付が9月に1名、10月に2名の受付申し込みがありました。

今後の改善策として、受付に際しての振込期限を設ける事を検討します。

7) ヨゼフ会：

・11月20日（日）コーヒー販売（光）をマリア会とコラボで実施と定例会を実施。

・予定：12月18日（日）コーヒー販売（光）

8) マリア会：

・ステラマリス帽子を編む会：帽子が193枚出来ました。11/24（木）横浜教区ステラマリス本部に、献品とセットしてクリスマスラッピングをして届けました。

・ボリビア支援グループ：11/20（日）11時のミサ後に前庭にてジャムと小物の対面販売をしました。大変好評でしたとのこと。次回対面販売は12/18（日）11時ミサ後の予定です。

9) 青年会：

・教会学校の子どもたちにキャンドルのクリスマスプレゼント完成。18日に子供たちに手渡しする。作ったキャンドルは、教会の庭の花や祭壇のロウソクを整えた時にでた蠟を再利用。

・横浜療育医療センターへのクリスマスカード製作のお手伝い実施。

・予定：12/24のミサ奉仕、1/15の新成人ミサを準備。

＜神父さまより：ロウソクを整える意味の説明 宗教活動に於いて大事なものは、典礼的に目に見える「しるし」としての要素です。

要素には3つあります。それはロウソク、お花、香です。それを絶対者（神様）に捧げる事が典礼的に大切な行為です。ロウソクの場合

合は光を灯し神様の存在を現わす意味、ロウソクの光と共に礼拝する意味など色々な意味があります。奉献物は常に新しいものを使用する事が望ましいですが、使用したロウソクを使う場合、整えた物を神様に捧げたいと言う想いから、溶けて変形した箇所を削りロウソクを整えています。>

10) インターファミリー :

- ・ミサ新式次第のローマ字訳のパフレットを11/26(土)から聖堂の入り口で配布。
- ・予定:12月18日(日)ミーティング

(二階集会室にて)

- ・シーズングリーティングカードを「アルペなんみんセンター」に贈る予定。

11) 一粒会 :

- ・11月23日(水・祝)に東京カトリック神学院ザビエル祭に5名で参加し、神学生の皆さんに歓迎していただきました。来年はバスをチャーターして、多くの方が参加できるように計画します。

以上

待降節黙想会に参加して

12月10日、コロナ禍にあって久しぶりの待降節黙想会が行われました。50名余りが参加し、録画配信も多くの方がご覧になり、大切な降誕祭への準備の時間になったと思います。

指導司祭はアシジのフランシスコ牧山善彦神父様でした。(焼津教会主任司祭)



黙想会は大きく2つに分かれ、まず『歴史のなかに生まれる神の子を見つめて』というテーマで、マタイの「イエス・キリストの系図」を読み解いてくださいました。普段ならサラッと読み流してしまいそうな系図から、私たちも長い歴史の一部である実感と意味と喜びを考えさせられました。そして、黙想会後のゆるしの秘跡のために「罪」とは、「ゆるしの秘蹟」という「祝祭」喜びについて、ゆるしの秘蹟への心構えをあらためてお話しくださしました。

以下は、参加された方々、録画配信をご覧になった信徒の皆様からの声を分かち合います。

☆聖書のカタカナの羅列だった名前が、神父様のお話から、血が通っている生身の人として迷いや間違いを起こしつつも生きていたことを知り、身近に感じられたことは、聖書に近づくことができる第一歩でした。そして、そんな私達の生き方の全てを知って受け入れてくださっ

ている存在と、赤ちゃんとなって私達のところへ産まれて来て下さったイエス様の意味深さを、しみじみ感じとることができました。そして、告解へのお誘いも、私(達)に寄り添ったお話で、そのままでもいいんです。ということがとても救われた気持ちになりました。自分と向き合ういい黙想会の時間となりました。

☆待降節は“イエス様が私達のもとに降りたい”と思っている季節と聞き、「早く来て下さい！」とワクワクしました。

☆よっちゃん神父様のお話を傾聴させて頂き、赦しの秘跡が、神様から先に私達を赦して下さるという大きなお恵みだという事を再確認しました。また、罪、そのものだけではなく、罪な行いによって、他者を傷つけてしまった事を悔い改め、赦される体験を通して、他者との関係性を回復する恵みを頂くんだと実感出来ました。自由気ままに生きている私ですので、家族や知人には、沢山赦してもらって、楽しく生活できています。赦しの秘跡で、神様に近づき、他者との関係性をゆっくり黙想して、悔い改めていかなければと思います。今年の漢字が「戦」とニュースになっていますが、誰も戦う事を望んでいないかも知れないのに、自国の事などを思い、その結果として何故だか望まないけれど、戦いになってしまうのは本当に悲しいです。神父様からも、赦しの秘跡はいつでも受けられますという言葉頂きましたが、クリスマス前だけではなく赦しという恵みを常に意識して生活していきたいと思いました。

☆語り口も若々しく新鮮でした。教会にも新しい世代が、新しい波がきていると感じました。聖書の見方も新しい感覚を感じました。

☆いつもの口調でハッキリと分かりやすいお話。系図のお話は興味惹かれた。わかっていたゆるしの秘蹟について、改めて講話を聞いている間に、ここの所告解から足が遠のいている事に「今すぐ告解したい」という気持ちが昂った。



ちょうど待降節第3主日にあたりましたので、牧山神父様は司祭叙階式の折に二俣川教会から贈らせて頂いたバラ色の祭服を着て、17時のごミサを司式してくださいました。感謝も喜びもひとしおの「喜びの主日」となりました。



二俣川教会ニュース

●青年会はクリスマスに向けてキャンドルを作りました！

子供たちに贈るキャンドルです。2種類のキャンドルを作りましたが、1つは二俣川教会の前庭(マリアガーデン)のお花をドライフラワーにしたものを使った美しいキャンドルです。もう1つは、姜神父様が祭壇の口ウソクを整える際にでた細かな蠟を溶かして作ったカラフルキャンドルです。このキャンドルの光のように、私たちもクリスマスの小さな光となって歩んでいくことができますように。神父様が毎月訪問されている高齢の方々にもプレゼントすることができました。



●クリスマスツリーを飾りつけ♪

毎年恒例のクリスマスツリーの飾り付けは、待降節第1主日に教会学校の皆さんで行いました。前週の教会学校で作った手作りカードも飾られ、可愛くて味わい深いクリスマスツリーが完成しました。是非、近くでご覧ください♪



●『二十六聖人委員会』発足のご報告と予告！

「二俣川教会の守護の聖人である二十六聖人についてもっと学ぶ機会を作ってほしい」という信徒の方からのご意見からスタートした『二十六聖人委員会』。しかし、記念日だけを祝ったりする単発的な企画ではなく「日本二十六聖人と共に歩み続ける二俣川教会を目指す」という大きな柱を据えての委員会となるよう動き出しました。会議は日本二十六聖人をテーマにした分かち合いをしているような様相で、その輪を広げていきたい気持ちで進めています。

皮切りとして、ちょうど主日にあたる2023年2月5日の『日本二十六聖人殉教者』の記念日に向けた計画を現在検討しています。信徒の皆さんに、本委員会発足の趣旨を説明し、2月5日に向けて行う「黙想とお祈り」も準備中です。難しいお勉強ではなく、日本二十六聖人について学び分かち合っていくことは、二俣川教会に実践的な信仰のつながりを造る助けになり、更には社会生活の中にも繋がっていくと感じています。共に歩んで参りましょう。

(二十六聖人委員会)



『日本二十六聖人 を 知ろう!』

～ 学び、共に歩む ～

Vol. 4 : 日本二十六聖人に関連する書物の紹介 (2)

日本二十六聖人や日本の殉教者について知ることのできる本をご紹介します企画の第2回目。今回も更に4冊の本をご紹介します。

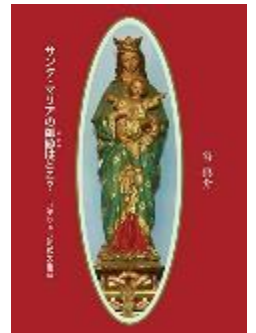
⑤ 「かくれキリシタン 長崎・五島・平戸・天草をめぐる旅」 著者：後藤 真樹 発行：新潮社

2018年、長崎県と熊本県に点在する12の資産が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録されました。写真家である著者の写真は勿論美しく、ガイドブックとして見応えがあります。でも私たちは、地元の方の『天草は殉教の島じゃなかですか。命をかけて守ってきた信仰が、今は世界遺産とかでもてはやされていますが、それがいつまで続くのか。自分たちも苦労して守ってきたぞと子どもたちにも伝えていこうと思っています。』という言葉が胸におきながら読む事をお勧めしたい一冊です。



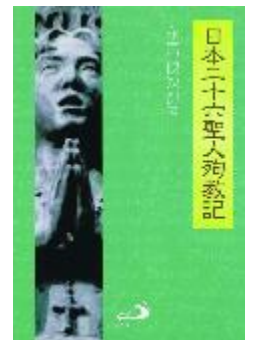
⑥ 「サンタ・マリアの御像はどこ? プチジャン司教の生涯」 著者：谷 真介 発行：女子パウロ会

1865年3月17日、当時神父だったプチジャン司教は、自ら完成させた長崎の大浦天主堂で「旧信徒たちの子孫発見」という歴史的な場に立ち会ってから死去するまでのおよそ20年間の間に、精力的に日本カトリック再興の為に様々な事業を推し進めました。毎年3月17日は「信徒発見の聖母」の祝日ですね。この本を読むと、信徒発見ののちに、日本の教会の礎づくりに使徒職使命の全てをかけて奮闘したプチジャン司教達の労苦を知ることができ、使徒発見を祝うと共に、司教の生涯にも思いを馳せ、感謝の心が沸き上がることでしょう。



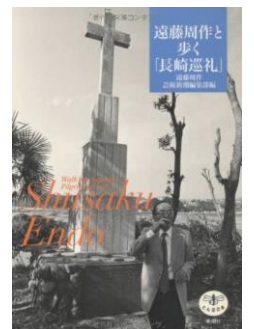
⑦ 「日本二十六聖人殉教記」 著者：永富 映次郎 発行：サンパウロ社

本書は、1950年頃のフィリピン使節神父団と太閤秀吉とのやり取りや経緯を時代背景とし、そのような時期に起こったフィリッピン事件により、スペインの日本征服説などを背景に、太閤秀吉の禁教令が厳しくなり、迫害が始まり、初めての信徒の捕獲やイエズス会とフランシスコ会の確執などが事細かく記載されていて興味深いです。二十六聖人の京都～長崎への見せしめ歩行、西坂の丘の殉教の姿が生々しく詳細に描かれ、二十六聖人が己の信念を、命をかけて守り通した息吹きが伝わってきます。殉教の時代背景と二十六聖人の信仰心を知る上で、大いに参考になる本の一冊です。



⑧ 「遠藤周作と歩く長崎巡礼」 著者：遠藤周作 発行：新潮社

長崎は遠藤の心のふるさと。長崎の地に降り立ち長崎を巡るといつも新しい感動と憩いに充たされるといいます。旅は一枚の踏絵から始まりました。踏んだのはどんな人たちだったのか、どんな思いで踏んだのか、私が当事者だったら踏んだのか。代表作「沈黙」の舞台をキチジローと共に歩みます。西坂から本河内にて日本二十六聖人殉教地にも訪れます。多くの文化的背景の長崎の歴史を知って学んで、私たちも歩き始めましょう。



シノドスの会期が延長されました

フランシスコ教皇様は「シノダリティ」(共に歩むこと)のうち
に教会が成長するために聖霊が求めていることを識別する過程を
“急ぎたくない”として、次回のシノドス(世界代表司教会議)を
2回の会期に分けて開催すると発表されました。次回のシノドス
通常総会は元々、2023年10月4日～29日までとされていまし



たが、更に2024年に2度目の総会が開かれるということです。「既にシノドスの過程での実
りは多いのですが、さらに豊かに成熟させるためには、何も急ぐ必要はないのです」と強調さ
れるフランシスコ教皇様。そして「私は信じています。この決定によって、教会の本質的な特
質としてのシノダリティの理解が促進され、誰もが福音の喜びを告げ知らせる兄弟姉妹とし
ての旅路として、その道を共に歩めるようになるでしょう」と話されました。2021年から始
まったシノドスへの歩みとして、私たち二俣川教会もアンケートに答えて、度々神父様のお説
教や「二十六聖人」掲載の質問の解説文を通して学んできました。会期延長の知らせを、喜び
を持って受け止め、「シノダリティの実践」を目指して2023年、新たな気持ちで歩み始め
ませんか。



マリア会通信 No. 123

主のご降誕おめでとうございます。コロナ感染者が増えており、心配は尽き
ませんが、今年はマリア会も、以前のようにはいかないまでも、色々な活動を
再開することができました。皆さまのご協力や関係者の努力と工夫の賜物だと思い、心から感
謝しております。

さて、来年は久しぶりにマリア会総会を開催いたします。2023年1月29日(日)を予定
しておりますが、詳細は追ってお知らせいたします。

皆さま、どうぞ良いお年をお迎えください。

マリア会 F. N.

【編集後記】編集後記を書きながら、来年のことを思います。降誕祭が間近になり、神様のこ
とを思うことが多いせいか、新しい年に向けて明るい気持ちになります。個人的な思いです
が、新型コロナも集団免疫が進み、ワクチン効果もあり重症化が避けられるだろうと。教会だ
より『二十六聖人』も、表現の工夫や提案型内容もあり、増々読み応えのある機関紙になっ
てきていると思いますし、信徒活動も徐々にではありますが活発化し、紙面を豊かにしていると
感じます。

(S.W. 記)